

研究構想シート		学校名	雲南市立三刀屋小学校
		氏名	多賀 了
A 研究主題 情報活用能力に視点をもった学習展開の構築			
B 研究の目的 ○情報活用能力系統表を基にした往還的検証授業をする。 ○情報活用能力の指導計画を再構成する。 ○児童の学ぶ力の向上のためにICT（タブレット）をどのように活用したら効果的かを明らかにする。			
C 子どもの実態  ○のびのびと生活している ○人なつっこく、人と関わることができる。 ○言われたことはできる。 ○すなおで明るく行動できる子が多い。 △時と場に応じたあいさつ、返事ができない児童が少なからずいる。ルールやマナーに対する意識が低い。  ○タブレットを楽しみながら活用している児童が多い。 △タブレットのアップデート、充電が習慣化していない児童が多い。 △メディアの時間を目標値まで減らすことができない児童、家庭が多い。 △タブレットをゲーム、ユーチューブ、画像集めて使い、学習に活用できない児童が少なくない。  △自分の考えを表現したり、わかりやすく説明したりする力が弱い。 △タブレットを共同作業をしてまとめる経験値はない。	E 手立て・内容（研究仮説）  【研究仮説】 教師が「しっぽもひとやく」を意識した授業づくりを続け、ICT機器（タブレット等）を効果的に活用し、子どもたちが共に学び伝え合う場面を意図的に取り入れていくことで、子どもたちの確かな学力向上につながり、将来にまで学び続ける態度を育成することができるであろう。  【てだて】 ○研修会（クラスや授業で活用したICT活用法の紹介および共通理解） （研修情報システム活用、およびクラウドを活用した学習法） ○研究授業の実践 （一人一授業の公開～略案～） （初任者：年2回×2人・経験年数研修：年2回×3人に沿った授業の分析）		D めざす子どもの姿  ○タブレットを学習用具として、効果的・日常的に活用することができる子。  ○学習コミュニティを活用して、情報の共有、提供、提出がむりなくできる子。  ○時と場に応じてICTを活用し、自分の考えをわかりやすく表現したり、説明できたりする子。  ○デジタルシティズンシップの基礎力をもつ子。  ○進んで学習に向き合う子。
	F 検証方法  ○授業研究 ○Qubena活用レポートの検証（DAW率 WAU率 MAW率等の推移確認） ○タブレット活用実態の調査（アンケート） ○うめっこチャレンジウィーク ○学校評価（教員、児童、保護者の意識）		
	G 研究計画  【1学期】 4月 研究の方向性確認 情報システムの研修会 5月 研究構想確認 情報活用能力系統表の共通理解 6月 「チームズ」「キュビナ」第一回研修会 7月 「チームズ」「キュビナ」第二回研修会 研究授業×3 授業研究 活用実態報告研修会 【2学期】 8月 指導案審議 11月 訪問指導（初任研）A・Bチームによる授業研究 9月～12月  【3学期】 研究のまとめ		